

だいあんけん

第3回大安研公開セミナー

えっ？ほんま？ 健康と安全の豆知識

講演内容

- ①『旅行でかかる感染症
～レジオネラ症～』
- ②『結核は世界3大感染症
～大阪は日本で最多発地域～』

医療現場より

特別講演

『海外から来るかもしれない感染症
～知って安全に “お・も・て・な・し” ～』
大阪市立総合医療センター 小児救急科担当部長 天羽清子

日時：2019年11月7日（木）
14:00～16:00（13:30 開場）
会場：大阪市立東成区民センター
小ホール（6階）

〒537-0014 大阪市東成区大今里西 3-2-17
Osaka Metro「今里駅」2番出口から西へ約3分



地方独立行政法人
大阪健康安全基盤研究所

〒537-0025 大阪市東成区中道 1-3-69
電話：06-6972-1321 e-mail：webmaster@iph.osaka.jp



後援：大阪府、大阪市

「旅行でかかる感染症 ～レジオネラ症～」

衛生化学部 生活環境課長 山口進康

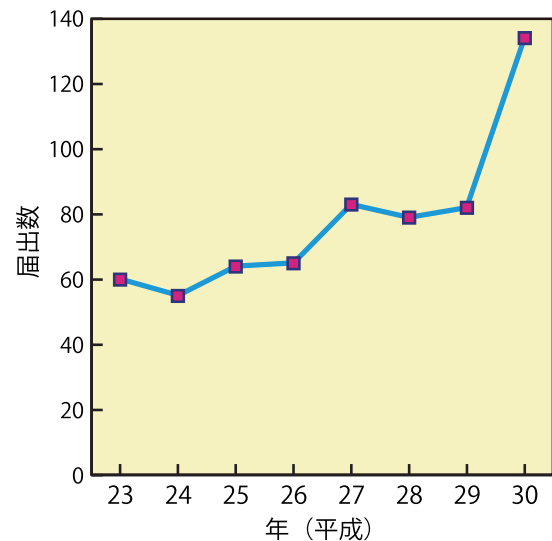
レジオネラ症の原因となるレジオネラ属菌は、1976年にアメリカで発生した集団肺炎の原因菌として初めて分離された細菌で、土壌や河川などの自然環境中に広く分布し、温泉や噴水などの水を循環する環境で増加します。高齢者や乳幼児、喫煙者や免疫機能が低下している人は感染のリスクが高くなり、国内では大型浴場施設や温泉旅館等での集団感染が散発しています。すなわち、**衛生管理が不十分な入浴施設で感染してしまう**ため、社会的な問題になっています。

<生物に由来>	ヒトからヒトに感染	:	結核、インフルエンザなど
	害虫が媒介	:	マラリア、デング熱など
	野生動物やペットとの接触	:	狂犬病、オウム病など
<環境に由来>	汚染された飲食品の喫食	:	食中毒
	環境中の病原微生物に由来	:	破傷風、レジオネラ症など

レジオネラ症の届け出数は全国的に増加傾向にあり、大阪府においても右のグラフのように増加しています。ヒトからヒトへ感染することは無く、症状は一過性の発熱で治まることが多い一方、重症の肺炎に進行し、死亡することがあります。初期症状は全身の倦怠感や頭痛、食欲不振、筋肉痛などで、進行に伴い、咳や38℃以上の高熱、寒気、胸痛、呼吸困難が見られるようになります。したがって、**感染の初期に適切な治療**を受けることが重要です。

新しい検査法が開発され、従来よりも検査が容易になりましたが、患者側からの説明が無いと、医師は風邪と診断してしまう可能性があります。すなわち、温泉等に行った後に上記の症状が現れた場合は、**医師に「温泉等に行った」ことを伝えるのが重要**となります。

また、感染の予防のためには、ジャグジーや打たせ湯などの「しぶき」が発生する場所を避けるとともに、入浴時の誤嚥を防ぐことが有効です。特に、飲酒後の入浴では誤嚥が起こりやすいので、注意が必要です。



大阪府におけるレジオネラ症の届け出数
(大阪府感染症情報センターのデータをもとに作成)

「結核は世界 3 大感染症 ～大阪は日本で最多発地域～」

公衆衛生部長 小林和夫

1993年に世界保健機関、1999年に厚生省（現 厚生労働省）が「結核緊急事態宣言」を発表、結核対策の強化を提言しています。また、2000年に沖縄県で開催されたG8サミットは結核、ヒト免疫不全ウイルス感染症（後天性免疫不全症候群、エイズ）とマラリアによる健康被害（年間患者発生数は約2億人、死亡数は280万人）が甚大であることから、これらを世界3大感染症に指定し、世界が協調して介入していくことを決議しています。結核対策は1）感染源対策（感染性の高い患者の早期発見／診断、隔離や確実な治療）、2）感染経路対策（個室収容、独立空調、マスク）、3）感受性宿主対策（ワクチン接種や抗結核薬による化学予防）及び4）一般国民や医療従事者に啓発・教育から構成されます。

◎結核の発生動向（世界、日本、大阪府・市）

結核は過去の病気ではなく、国内外を問わず、現在でも多くの結核患者や死亡が発生しています（表）。日本国内の発生動向において、**大阪府・市は都道府県・政令市で最多発地域です。**

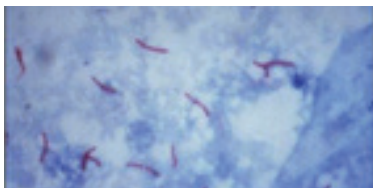
表. 結核の発生動向（2018）

	新登録患者数 (年間)	罹患(発生)率 (人口10万対)	死亡者数 (年間)	死亡率 (人口10万対)
世界	10,000,000	133	1,570,000	21
日本	15,590	12.3	2,204	1.8
大阪府	1,805	20.5	250	2.9
大阪市	798	29.3	104	3.8

世界保健機関：世界結核報告書 2018
厚生労働省健康局結核感染症課：2018年結核登録者情報調査年報集計結果

◎結核の病態・早期発見・診断・治療

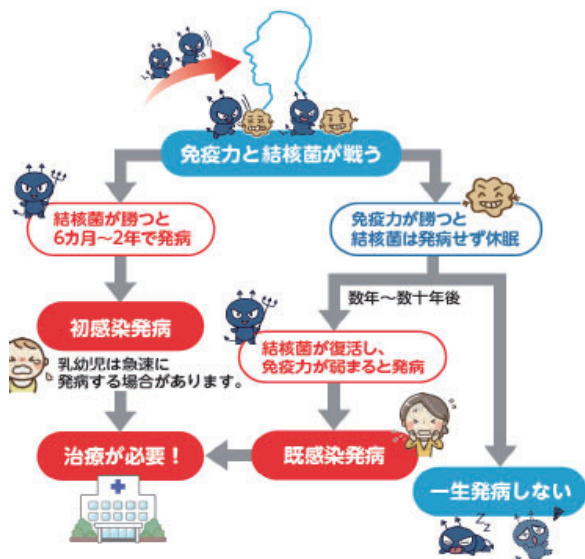
結核は結核菌を吸入（空気感染）することにより発病するため、主病変は**肺結核**です。**早期発見**（2週間以上持続する咳、痰や発熱など）・**診断**（痰の検査、胸部X線検査など）、**確実な治療**（複数の抗結核菌薬の服用、6か月間）により、結核は治癒する疾患です。また、確実な治療は感染拡大の防止にも貢献します。



結核菌（赤色、桿菌） 米国疾病管理予防センター



肺結核の胸部 X 線所見（標準微生物学、2019）



結核菌感染と病態（結核研究所、2019）

「海外から来るかもしれない感染症

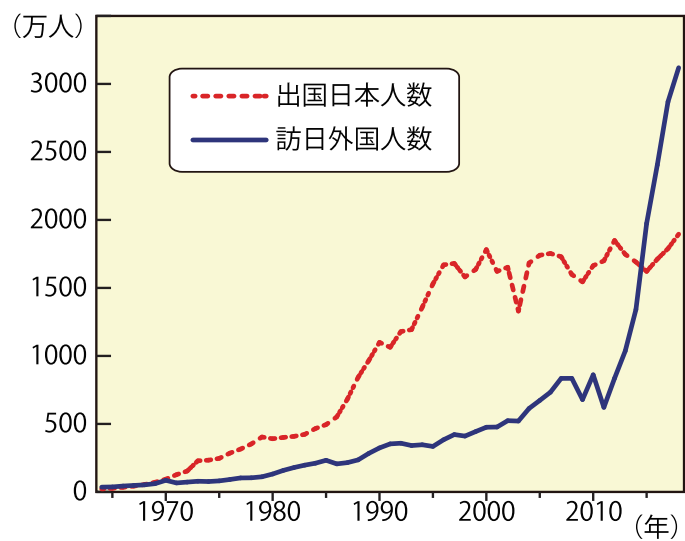
～知って安全に"お・も・て・な・し"～

大阪市立総合医療センター 小児救急科担当部長 天羽清子

海外から日本に旅行や仕事などで訪れる外国人の数は、この数年で急激に増加しています。大阪でも、観光地だけでなく住宅街やデパ地下でも、旅行者と思われるスーツケースを持ったいろんな国の外国人を数多く見かけるようになりました。

2020年には東京オリンピック・パラリンピック、2025年には国際博覧会（大阪・関西万博）が開催を予定されており、さらなる外国人入国者の増加が予測されます。私たちは経済面や国際交流面などで大きな恩恵を受ける一方で、日本に無い／無くなった感染症が海外から持ち込まれる危険性も増大しています。

2014年に東京代々木公園で感染者が発生したデング熱や、2016年に関西空港内で集団発生した麻疹（はしか）なども、国外から持ち込まれたウイルスが原因と考えられています。



年別 訪日外国人数, 出国日本人数の推移
(日本政府観光局 (JNTO) のデータをもとに作成)



これら持ち込まれる可能性のある感染症の中には、ワクチンで予防できたり、環境整備などで蚊を減らすことで感染拡大を抑えられるものもあります。病気の事を正しく知ると、自分が感染しない・感染を広げないための準備ができます。

遠くから日本に来た外国人の方が、日本の良さを知り日本を好きになり、また遊びに来たくなるような素敵な「お・も・て・な・し」を安全に安心してできるよう、それぞれの感染症について一緒に知りましょう！